



SKY Perfect JSAT
Holdings Inc.



さらなる成長への挑戦。

株主通信

2018年3月期 第2四半期

2017年4月1日～2017年9月30日

株式会社スカパーJSATホールディングス



2017年12月
代表取締役社長

高田真治

戦略的な業務提携などによる
事業領域の拡大を含め、
新たな成長基盤の構築を
目指してまいります。

2018年3月期第2四半期の業績

2018年3月期第2四半期の業績は、メディア事業はJリーグ放映権を失ったことに伴うサッカー関連収入の減少やその他視聴料収入の減少により減収減益となりました。宇宙・衛星事業においても、放送トランスポンダ収入の減少や前期に打ち上げた新規衛星等による減価償却費の増加により減収減益となりました。

成長に向けた取り組み

当社グループは、株式会社NTTドコモが専用に利用するJCSAT-17の調達を決定しております。JCSAT-17は、2019年度にギアナ宇宙センター（南米フランス領ギアナ）からアリアン5ロケットで打ち上げられる予定となっており、直径18mの大型アンテナを搭載し主に移動体通信向けにサービスを提供します。また、Boeing Satellite Systems International Inc.（米）との間で、ハイ・スループット・サテライト（HTS）の機能を有するJCSAT-18の調達契約を締結しております。HTSは従来衛星に比べて通信容量を増大させることが可能であり、現在供給不足の状態が続いているモバイルやブロードバンド等

の通信需要に対応してまいります。JCSAT-18は2018年度下期に打ち上げを予定している通信衛星「Horizons 3e」に続き、当社グループとして2機目のHTSとなり、2019年度にスペース・エクスプロレーション・テクノロジー社（米）のファルコン9ロケットにより打ち上げられる予定です。

また当社グループはKymeta Corporation（米）の開発した平面アンテナ端末mTenna^{u7} ASM（Antenna Subsystem Module）を用いた大容量衛星通信をアジアで初めて実施し、成功しました。車体屋根に搭載した平面アンテナ端末の自動衛星捕捉機能がJCSAT-5Aを捕捉し、走行中も車載アンテナの向きを物理的に変えることなく衛星通信回線を確認しました。さらに、同車内からのHD映像伝送にも成功するなど、来るべきコネクテッドカー時代へ向けての取り組み強化を進めています。

メディア事業においては、海外サッカーシーズンが佳境に入っていきます。今シーズンもUEFAチャンピオンズリーグを全試合中継しているほか、UEFAヨーロッパリーグ、イタリアセリエA、イングランド プレミアリーグを放送しております。また音楽ライブでは、12月23日（土・祝）にMr.Children DOME & STADIUM TOUR 2017 Thanksgiving 25（デビュー25周年記念）をBSスカパー！で独占放送いたします。

2018年3月期第2四半期

連結営業収益

737億円

前年同四半期比
7.1%減

連結営業利益

88億円

前年同四半期比
19.7%減

連結経常利益

94億円

前年同四半期比
15.0%減

親会社株主に帰属する
四半期純利益

64億円

前年同四半期比
8.6%減

1株当たり連結
四半期純利益

21.57円

前年同四半期
23.61円

す。オリジナルコンテンツとしては、「週刊モーニング」で人気を博した野球漫画「グラゼニ」を初のオリジナル連続アニメとしてBSスカパー！で2018年プロ野球シーズン開幕期に放送する予定です。

来年末の東経110度衛星基幹放送における4K・8K放送開始に向けて4Kテレビの普及が加速していきます。インターネットに接続することで、多彩な放送・通信融合サービスを楽しめる4Kテレビの機能を活用し、大画面での高画質放送と見たい番組をいつでも楽しめるインターネットの利便性を組み合わせた新たなテレビライフの提供を目指します。

2018年3月期の業績見通し

9月26日に2017年度の業績予想を修正いたしました。当社グループは、防衛省より衛星調達業務を請け負っておりますが、本事業衛星1号機の防衛省に対する引き渡しは従来想定していた2018年度から前倒しとなり2018年3月となる見通しとなりました。またメディア事業においては、加入件数、連結子会社の業績が当初の想定を下回って推移しております。これらの要素を考慮し営業収益を上方修正する一方、営業利益・経常利益・親会社株式に帰属する当期純利益は据え置きました。

2018年3月期業績予想

▶ 営業収益を上方修正

	連結 営業収益 (百万円)	連結 営業利益 (百万円)	連結 経常利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する当期 純利益(百万円)	1株当たり 連結当期 純利益
5/19 発表予想	153,500	17,000	17,500	11,500	38.72円
9/26 修正予想	171,500	17,000	17,500	11,500	38.72円

株主還元

株主の皆様への還元につきましては、引き続き将来の成長へ向けた投資のための内部留保の充実と安定配当の継続を基本方針としております。2018年3月期につきましては、年間1株当たり18円の配当を継続する方針です。

株主の皆様におかれましては、引き続き当社の成長にご期待いただきながら、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



株主の皆様へ、当社事業の状況についてお話しします。

宇宙・衛星事業の概況についてご説明ください。

宇宙・衛星事業では、他の衛星オペレータとの共同衛星も含め17機の衛星を保有しています。当社の衛星は、成長性の高いアジア・太平洋地域を中心にカバーエリアを拡大し、地上・海・空とも需要が拡大するグローバル・モバイル市場の深耕拡大を進めています。

売上比率は国内通信、放送利用、グローバル・モバイルがそれぞれ約5割、3割、2割となっています。国内通信、放送利用は長期契約顧客が多く安定的である一方、グローバル・モバイル市場の競争は激しいものの市場は成長しております。

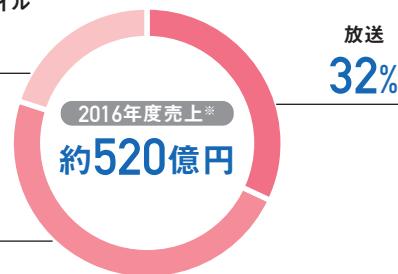
グローバル・モバイル

20%

放送
32%

国内通信

48%



* 2016年度防衛省向けPFI(プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)事業による営業収益を除く。

メディア事業の方向性についてご説明ください。

当社は、2017年7月から「有料多チャンネル事業部門」を「メディア事業部門」に改称し組織再編を行いました。映像サービス分野では、さまざまなビジネスモデルのプレーヤーがOTT(Over The Top)サービスを強化し、ディスプレイ争奪競争は激しさを増しています。今後は、多チャンネル放送のみならず、あらゆる伝送路やデバイスへのサービスを強化し、既存事業の枠組みにとらわれない新サービスや新規事業の開発を推進することにより、幅広くマネタイズ(収益化)していくことを目指します。

視聴環境
の変化

TV

PC

スマートフォン
タブレット



デバイスの多様化へ

メディア事業の取り組み

コンテンツ強化

BSスカパー!

商品力強化

スカパー!
on demand

IR活動のご紹介

個人投資家向け会社説明会を毎年開催しています

毎年、当社は全国主要都市において、個人投資家向け会社説明会を開催しています。株主様との対話を通じ、皆様のお考えを経営に活かしてまいります。今後の説明会にも、ぜひご参加ください。(地図は2012～2016年度実績)



個人投資家向け会社説明会開催のお知らせ

(主催: 日本証券新聞)

日時

2017年12月7日(木)
12:30開場～15:30終了予定

会場

朝日生命ホール(大阪朝日生命館8階)
大阪市中央区高麗橋4-2-16

募集定員

350名

参加料

無料

申し込み方法

「12月7日大阪セミナー 参加希望」と記載の上、住所・氏名をご記入いただき、メールにてお申込みください。

メールアドレス seminar@nsj-r.jp

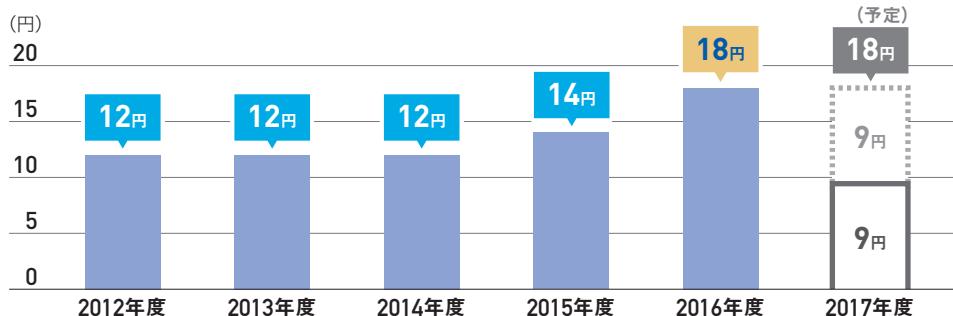


株主還元

配当については、積極的な事業展開に備えるための内部留保の充実を図る一方、財政状態、利益水準を勘案し、決定いたします。

1株当たり「年間16円」または「配当性向30%で計算される配当額」のいずれか高い金額を配当する方針に基づく、安定的な配当として、2017年度第2四半期の中間配当金は、1株当たり9円とさせていただきます。

▶ 過去5年間の一株当たり配当金額



ドローン事業の新たな取り組み

当社グループ会社であり、ドローンの開発・製造・販売を手がける株式会社エンルートの経営基盤を強化し、量産体制を整えるため、2017年10月に資本の増強を実施しました。今後はR&D投資や提携等を推進し、測量、農業、インフラ点検など、幅広い産業分野での事業展開を加速させていきます。

ドローン事業の最先端を開拓する株式会社エンルート 瀧川社長に、成長産業としての現在と今後についてお伺いしました。

Q 今年4月に社長就任後、この半年間の振り返りをお聞かせいただけますか？

私はJCSATに1985年から1992年の7年間、そしてパーフェクTV!からスカパー!に1994年から2000年のやはり7年間とお世話になりました。エンルートの代表になった私にとってドローンビジネスは全く新しい挑戦の分野でしたし、それはエンルートとの共同事業で出資しているスカパーJSATグループにとってもそうだと思います。毎日が新しい学びであり、非常に刺激的で楽しくやりがいのある日々を過ごしています。ドローンビジネスはまだまだ揺籃期、黎明期、草創期ですが、必ず10倍、100倍、1000倍にも伸びる産業ですので、皆様のご指導、ご協力をいただきたいと思います。

Q スカパーJSATグループにおけるエンルートの位置づけとは。

今後も役割が増えしていくと考えておりますが現時点において少なくとも2点あります。

第1に、現在のスカパーJSATグループは30年以上のお客様との信頼関係がありますので、そのお客様にドローンを使ったシステムやサービスの提供が出来ることです。

第2に、衛星通信を使ったドローンの制御ができるようになると、ドローンの活用範囲が広がり、衛星通信の市場も広がる可能性があると考えています。

株式会社エンルート

代表取締役社長 **瀧川 正靖**



伊藤忠商事から日本通信衛星(株)(JCSAT)、パーフェクTV!(いずれも現スカパーJSAT)へ出向し、黎明期の衛星回線市場の開拓発展に尽力。伊藤忠商事メディア事業課長、(株)石森プロ取締役副社長、(株)スペースシャワーネットワーク取締役執行役員等を経て、2017年産業用ドローンのトップブランド(株)エンルート代表取締役社長に就任、現在に至る。

Q 事業の特徴について、特にドローンにおけるエンルートの独自性は？

エンルートはドローンの企画設計開発から製造、販売、保守、そしてスクールまで一貫したサービスを提供できるユニークな企業です。また、それぞれの用途に応じた試作機などをスピーディーに製作する能力もあり、様々な将来の技術開発も実施しています。

例えば、農業散布分野をいち早く開拓、農業用ドローンの開発ではトップメーカーとなっています。測量分野では世界的な光学機器メーカーである株式会社トプコン、株主でもある衛星ネットワークとともに測量の効率が何十倍も向上する画期的なドローンQC730-TSを開発し、2017年9月より販売開始しました。大変多くの引き合いをいただいております。さらに橋梁や太陽電池パネルなどのインフラ点検分野、消防災害対策などの分野でも先駆けた研究開発を進めています。

Q 今後の目標について教えてください。

一つ目はメーカーとして安全性が高く技術的に優れたドローン(無人航空機に加え無人陸上機など)を開発、製造販売して、日本一のメーカーとなることです。さらに安全対策、品質管理なども重要視し、21世紀の社会の役に立つ企業となっておりまいます。二つ目は総合的なサービス、つまり、製造、販売、保守、定期点検、修理、保険、ドローンスクールそして情報ソリューションを統合したサービスを来年からスタートしたいと考えています。三つ目の目標は、素晴らしいデザインのドローンや、皆様がワクワク、ドキドキするような使い方を開発し世界に進出して行くことです。

今後も、スカパーJSATグループとともに、成長産業であるドローン分野の最先端を開拓してまいりますので、ご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

今後注力する事業分野

事業への取り組み1

自動航行型産業用ドローンで農業を支援

エンルート社ではすでに自動航行型*ドローンの技術を確立し、農業分野への応用(農作物の生育状況を診断・分析。そのデータを元に肥料や農薬を散布するドローン)を進めています。国内初となる農業散布に特化した農業用マルチコプターは、自動航行で安定性を維持する高性能ジャイロを搭載し、小型・軽量化を実現した画期的製品です。

※ ドローンの操縦は、一般的にラジコンのようにリモートコントローラーで行い、操縦する人が見えないところに飛ばすことはできませんが、「自動航行型ドローン」にはコンピューターが搭載され、プログラミングすることによって操縦者から見えない場所へも飛行することが可能です。



田んぼを飛行するドローン

事業への取り組み2

世界初の標定点不要な写真測量システムへ専用ドローンを開発

ドローンによる空中写真測量は、国土交通省の推進する「i-Construction (ICTを現場活用した生産性の高い建設現場の創出)」に伴い、施工現場での活用が盛んになっています。従来は撮影するカメラの3次元位置を測定するための標定点(地上に設置した基準点)が多数必要で、工事の進捗とともに除去・設置を繰り返す手間がありました。今年3月に国土交通省がドローン空中写真測量の作業要領を改訂し、「カメラ位置を直接計測できる手法」を併用する場合は標定点の設置を省略できるようになりました。

※ 「TSTラッキングUAS」は、ドローンに搭載するカメラに専用プリズムを取り付け、自動追尾型トータルステーション(測量機)で連続測定することで「カメラ位置を直接計測できる手法」としています。本システムにより標定点の設置は不要になりました。

この改訂内容に初めて準じたシステムを搭載した専用ドローンを、エンルートが開発・製造しました。これは当社グループの衛星ネットワークと、株式会社トプコンが発売した「TSTラッキングUAS」*を標準搭載した、標定点を不要とすることで大幅な省力化を実現する世界初の空中写真システムです。従来法に比べ生産性を6割程度向上させる画期的な専用ドローンとして、産業ドローン市場を新たに切り拓いていきます。

従来のドローン測量イメージ



多数の標定点が必要。

「TSTラッキングUAS」によるドローン測量イメージ



標定点は必要なし。



BSスカパー!の人気オリジナル連続ドラマ

ドラマ 弱虫ペダル 制作現場をいく!

若者たちの熱い自転車ロードレースの闘いを描いたBSスカパー!のオリジナル連続ドラマ「弱虫ペダル」。この秋からSeason2後編の放送も始まり、いよいよ物語も佳境へ。そこで今回は「弱虫ペダル」を制作する長内プロデューサーに、その人気の秘密を伺いました。

STORY

「週刊少年チャンピオン」(秋田書店)連載中の渡辺航氏による同名漫画が原作。アニメや漫画好きのオタク少年だった主人公が自転車で速く走る楽しさに目覚め、仲間とともに自転車競技部でロードレースにかけ、高校生たちの青春ドラマ。

弱虫ペダルができるまで

連載中の大人気漫画である「弱虫ペダル」のドラマ化を企画したのは、まず、自転車ロードレースは、スカパー!のスポーツチャンネルの中でも放送されており、既存の視聴者層との親和性が高いため、スカパー!でドラマ化する意義があったこと、そして、舞台版「弱虫ペダル」に出演する2.5次元俳優*を起用することで、彼らのファン層である20~30代女性という新しい層をスカパー!に取り込む、という理由からでした。

社内で企画進行の承認を取った後、原作者・出版社へキャスティング・スタッフィングなどドラマの構想を提案し、さらにロードレースの迫力と原作の素晴らしさを忠実に再現するドラマであることを伝えるためにパイロット映像も用意して、原作許諾をもらうことができました。また2.5次元俳優の起用に際しては、舞台に足しげく通ったり、舞台「弱虫ペダル」をBSスカパー!で放送するなど徐々に関係を深めることで実現することができました。こうして企画から撮影着工までに費やした時間は約二年。ようやく始まった撮影も走行シーンの撮影や雨の影響など苦悩の連続でしたが、関係各所の協力のもと、素晴らしい映像表現や心理描写が実現でき、結果、放送されたドラマが多くの反響を得たときは、感無量でした。

*2次元世界の漫画やアニメを原作にした、3次元の人間による舞台や実写ドラマで人気を博した俳優



第10回「東京ドラマアウォード2017」の作品賞・衛星・配信ドラマ部門で優秀賞を受賞し、喜びにわく番組制作スタッフら。(写真:左から2番目が長内プロデューサー)

番組制作にとって大変なことはなんですか?

番組制作に限ったことではないですが、会社の予算を使って進めている以上、結果を求められるところだと思います。結果とは、「見てもらえる視聴者の人数」と「作品の完成度」のことで、そのどちらかが欠けても「完成度は高いけどあまり見られなかった」、「話題にはなったが面白くなかった」ということになるため、双方を備えた企画の立案こそが求められるものだと考えています。

また、企画者として最初の企画コンセプトを間違えると、ドラマに関わる非常に多くの関係者に影響を及ぼしてしまうため、舵取りの役割としての責任の大きさも、大変さであると同時にやりがいであると思います。

弱虫ペダルの見どころは?

迫力あるレースシーンの描写と、妥協することなく試みた原作の忠実な再現度です。是非、原作『弱虫ペダル』の漫画を片手にドラマを見ていただきたいです。細かな描写への一つひとつのこだわりがおわかりいただけると幸いです。

HIGH LIGHTS



毎週金曜日 午後9時より
BSスカパー!で放送

「弱虫ペダル」公式サイト

<https://www.bs-sptv.com/yowapeda>



お金を払って見る作品だからこそ、本当のファンにとって大切な作品にしたい。この姿勢こそが、このドラマのコンセプトです。

視聴者の反応はどうか？

ドラマ『弱虫ペダル』は狙い通り原作ファンや2.5次元ファンから多くの支持を得ることができ、BSスカパー!として2016年度に最も新規加入者を獲得できたコンテンツとなりました。2017年10月26日には、民放連が主催する「東京ドラマアワード2017」というドラマ作品のショーレースで、名だたる地上波ドラマ作品と並び、新設された衛星・配信部門の優秀賞を受賞しました。コアな有料放送視聴者へ向けて作った作品が、より多くの視聴者層へと広がっていく足掛かりを得られたことは、当社コンテンツ制作の次なる展開に向けて、非常に大きな自信になると感じています。

今後どんな番組を作っていきたいですか？

2014年にBSスカパー!を大改編した頃は「地上波にできないこと」をテーマに掲げ、それを貫くことである程度成果が出ましたが、現在はさまざまな動画配信サービスが乱立し、「地上波にできないこと」はほかのサービスでもやっています。そんな中でも埋もれることのないスカパー!にしかできない番組を考え、制作したいと思います。ぜひ、今後のBSスカパー!の番組にご期待いただければと思います。



「弱虫ペダル」をご覧になるには

▶ チャンネル

BSスカパー! (BS ch.241/
プレミアムサービス ch.579)

▶ 視聴方法

スカパー!のチャンネルまたはバック・セット
等のご契約者は無料でご視聴いただけます。

スカパー!オンデマンドもご利用ください

スマートフォン、PC、タブレットでも手軽にお楽しみいただけるスカパー!オンデマンドは、ご契約者なら専用アプリの無料ダウンロードがお勧めです。スカパー!公式サイト上のログインページよりMyスカパー!IDを取得するだけで、オンデマンド視聴が可能です。

「スカパー!オンデマンド」公式サイト

<https://vod.skyperfectv.co.jp>

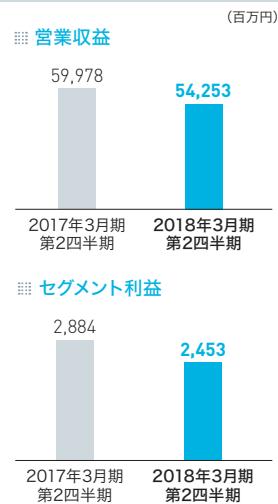


2018年3月期第2四半期の概況

オリジナル番組投入による競合サービスとの差別化としては、音楽コンテンツ『YUZU 20th Anniversary DOME TOUR 2017 ゆずイロハ』、オリジナルドラマ『弱虫ペダル Season2』などを放送しました。スポーツコンテンツでは『UEFAチャンピオンズリーグ17/18』、『B.LEAGUE 2017-18 シーズン』の放送を開始しています。また昨シーズンに続き、『スカパー！プロ野球セット』を販売し、スカパー！加入者の維持・拡大を図っています。

「スカパー！オンデマンド」においては、衛星放送のチャンネルや番組をリアルタイムでスマートフォンやPC、タブレット等で視聴できるIPリニア配信を62チャンネルに拡大しました。また加入者拡大の取り組みとして、6月及び9月に「加入料0円キャンペーン」を実施し、さらに10月からは加入料を無料としました。「スカパー！プレミアムサービス」における4K専門チャンネル視聴環境整備の一環として、7月より4K対応プレミアムサービスチューナーの販売を開始しています。

Jリーグ放映権喪失等に伴うサッカー関連収入・その他視聴料収入減少から営業収益は前年同四半期比57億円減少しました。サッカー関連のコンテンツ費用が36億円減少したこと等により営業費用は前年同四半期比53億円の減少となり、セグメント利益は15.0%減となりました。



TOPICS

「UEFAチャンピオンズリーグ17/18 全125試合生中継」

スカパー！では、今シーズンもUEFAチャンピオンズリーグをグループステージから決勝まで全125試合生中継します。欧州No.1を決める戦いでは各国リーグチャンピオンを含む強豪32クラブが激突。レアルマドリッド、香川真司所属のドルトムントなど多くの人気クラブが出場します。

※UEFAチャンピオンズリーグをご覧いただくには「スカパー！サッカーセット」をご契約ください。他にも国内外のさまざまなサッカー関連番組がTVはもちろん、スマホ・PC・タブレットでもお楽しみいただけます。

詳しくはこちらを検索ください
<https://soccer.skyperfectv.co.jp/>



加入の状況

	2017年3月期 第2四半期累計	2018年3月期 第2四半期累計
新規加入件数		
スカパー！ 合計	17.4万件	15.9万件
スカパー！	14.0万件	12.7万件
スカパー！ プレミアムサービス	3.1万件	2.8万件
スカパー！ プレミアムサービス光	0.4万件	0.5万件
純増数	△3.7万件	△3.5万件
累計加入件数	344.6万件	328.5万件

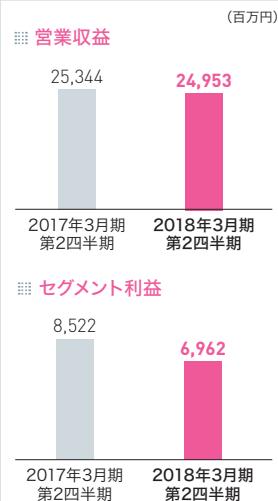


2018年3月期第2四半期の概況

国内衛星ビジネスにおいては、携帯電話基地局向けバックホール回線の提供拡大や、既存顧客に対する長期契約の更新を着実に進めて衛星通信市場の基盤を強化しています。防衛省より受注したXバンド衛星通信中継機能等の整備・運営事業に関し、輸送中の事故により損傷した衛星1号機の修理は順調に進んでおり、平成30年3月の打ち上げを予定しています。また国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)が開発を進めている光データ中継衛星では運用・維持管理にかかる業務を受注しました。移動体衛星通信ビジネスでは、船舶向け、航空機向けのインターネット接続サービス用の衛星回線の利用が堅調に推移しています。

またドローン事業に関しては、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)からの研究開発受託や、国土交通省の定める空中写真測量の作業要領に準拠した測量システムを搭載した新型ドローンの販売を開始するなど、産業用としての利用拡大を図っています。

放送トランスポンダ収入の減少により、営業収益は前年同四半期比4億円減少しました。また前期に打ち上げた新規衛星等による減価償却費の増加13億円等により、営業費用は前年同四半期比12億円増加し、セグメント利益は18.3%減となりました。

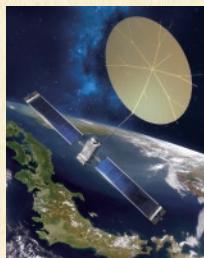


TOPICS

通信衛星JCSAT-17の 調達契約を締結

2019年度に打ち上げを予定している通信衛星JCSAT-17は、移動体通信用Sバンド及びCバンドを搭載。

長期契約の下、(株)NTTドコモがご利用を予定されています。



©Lockheed Martin

平面アンテナによる コネクテッドカー向け衛星通信に成功

スカパーJSATとKymeta Corporation(米)は共同で、平面アンテナ端末を用いて、走行中の車両で衛星通信回線を確立するコネクテッドカー実験に成功しました。

このカイメタ社の衛星捕捉技術を活用した平面アンテナ端末は、車両・航空機・船舶等への搭載により、移動中の双方向通信を可能とします。また、平面アンテナの“自動捕捉機能”、“省スペース”という利点により、災害時等の携帯電話の利用が困難な状況・場所においても、複数の車両に対するデータ同報通信や、人命救助活動に用いられる特殊車両等での活用が可能となります。当社の衛星通信は今後もIoT分野において「つなげる」開拓をさらに進めていきます。



平面アンテナ(自動車の屋根に設置)

連結財務情報

▶ 連結財務ハイライト

(単位:百万円)

経営成績:	2016/3 第2四半期 (4/1~9/30)	2017/3 第2四半期 (4/1~9/30)	2018/3 第2四半期 (4/1~9/30)	2017/3 通期 (4/1~3/31)	
営業収益	81,756	1	79,318	73,720	192,875
営業総利益	29,480	29,389	26,900	62,282	
営業利益	10,871	2	11,061	8,881	24,433
経常利益	10,884	11,125	9,453	24,875	
税金等調整前四半期純利益	10,939	10,321	9,533	24,296	
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,035	7,012	6,407	17,415	
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,069	7,678	8,010	7,029	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△16,470	△11,007	△ 11,766	△22,882	
フリーキャッシュ・フロー(*)	△2,401	△3,329	△ 3,756	△15,853	
財政状況:	2016/3 第2四半期末 (9/30)	2017/3 第2四半期末 (9/30)	2018/3 第2四半期末 (9/30)	2017/3 期末 (3/31)	
現金及び現金同等物の四半期末残高	57,174	44,598	47,438	46,150	
総資産	315,864	323,657	3	357,021	359,484
有利子負債残高	61,721	65,908	90,901	82,753	
純資産	203,995	202,126	4	217,931	213,908

*フリーキャッシュ・フロー=営業活動によるキャッシュ・フロー+投資活動によるキャッシュ・フロー

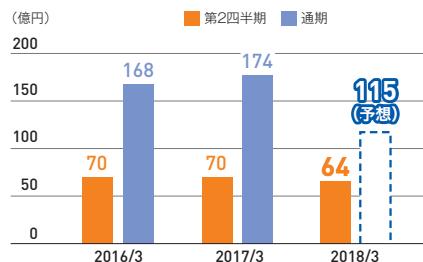
営業収益



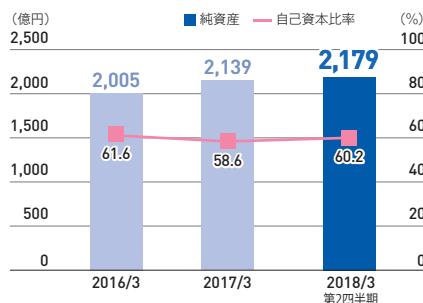
営業利益



親会社株主に帰属する四半期純利益



純資産 / 自己資本比率



損益状況

営業収益¹は、Jリーグ放送がなくなったことに伴うサッカー関連コンテンツ収入の減少等により、前年同四半期比7.1%減少しました。前年度に打ち上げた衛星の減価償却費が増加した一方で、サッカー関連コンテンツ費用が減少したこと等により、営業費用は前年同四半期比で5.0%減少し、**営業利益²**は前年同四半期比19.7%減。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同四半期比8.6%減となりました。

キャッシュ・フロー

営業キャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却費に加え、売上債権の減少による収入、たな卸資産の増加、未払金の減少による支出、法人税等の支払等により80億円の収入となりました。投資キャッシュ・フローは、有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出、及び長期貸付による支出等により、118億円の支出となりました。営業キャッシュ・フローと投資キャッシュ・フローの合計であるフリーキャッシュ・フローはマイナスとなりました。

財政状況

総資産³は前年度末に比べ、25億円減少しました。資産の主な増加は有価証券及び仕掛品であり、主な減少は売掛金及び有形固定資産です。負債は未払金の減少により前年度末に比べ65億円減少しました。親会社株主に帰属する四半期純利益等による利益剰余金の増加により、**純資産⁴**は前年度末比40億円増加しました。

第11回株主様アンケートご協力をお願い

当社グループでは、毎年株主様アンケートを実施させていただいています。ぜひ、皆様の株式投資に関するお考えや当社グループへのご意見をお寄せください。今後の経営およびIR活動の参考とさせていただきます。回答方法は下記のいずれかの手順にてお願いいたします。

 同封のはがきにご記入いただき、郵便ポストに投函してください。

はがき

ご回答メチ

2018年1月4日(木)
到着分まで

 当社ウェブサイトアクセスし、株主様アンケートのバナーをクリックしてください。アンケートサイトに移動しましたら、下記株主様専用のログインIDをご入力いただき、ご回答をお願いいたします。

ウエブ

URL : <https://www.skyperfectjsat.co.jp>

ご回答メチ 2018年1月4日(木)アクセス分まで

プレゼント



アンケートにご回答いただいた方の中から**抽選で100名様**に、2018年卓上カレンダーをプレゼントいたします。なお、発表は発送をもって代えさせていただきます。

カレンダー発送時期

2018年1月中

株主様優待情報



アンケートにお答えいただいた株主様から抽選で、

人気番組「**BSスカパー! BAZOOKA!!!**
第13回高校生RAP選手権」へご招待!

番組のコーナーの一つとして立ち上がった企画が、回を重ねるごとに人気を集め、会場をスタジオからライブハウス、日本武道館へと規模を拡大。「フリースタイルラップの甲子園」として人気を博しています。等身大の言葉で思いを表現する若きラッパーたちのまっすぐな気持ちが会場にいるすべての人々を惹きつけ、ラップやHIPHOPファンに限らず、高校生はもちろん、さまざまな年代を魅了。その高校生RAP選手権第13回大会は、2018年3月17日(土)豊洲PIT(東京)での開催を決定! 詳細は公式サイト「BAZOOKA!!!高校生RAP選手権」でご確認ください。この大会に、株主様ご優待として、当社実施の株主様アンケート(上記参照)にご回答いただいた方の中から抽選で15組30名様(スタンディング席のみ)をご招待します。ぜひアンケートにお答えください。なお、発表はチケットの発送をもって代えさせていただきます。

(ご当選された際のイベント会場までの交通費、宿泊費は株主様ご自身のご負担となります。)

公式サイト▶ <https://www.bs-sptv.com/bazooka/rap>



第12回高校生
RAP選手権in幕張

会社情報

■ 会社概要 2017年9月30日現在

会社名	株式会社スカパーJSATホールディングス (SKY Perfect JSAT Holdings Inc.)
設立	2007年4月2日
資本金	100億円
従業員数	850名(連結)2017年3月31日現在
所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂一丁目14番14号
電話番号	03-5571-1500(代表)
URL	https://www.skyperfectjsat.co.jp

取締役及び監査役

代表取締役社長	高田 真治	取締役(非常勤)	中谷 巖
取締役	仁藤 雅夫	取締役(非常勤)	飯島 一暢
取締役	小森 光修	取締役(非常勤)	小笠原倫明
取締役	小山 公貴	取締役(非常勤)	上坂 清
取締役	横水 伸次	取締役(非常勤)	小杉 善信
取締役	小牧 次郎	取締役(非常勤)	新宮 達史
		監査役	小川 晃
		監査役	西村 至
		監査役(非常勤)	勝島 敏明
		監査役(非常勤)	相子 宏之

■ 株式情報 2017年9月30日現在

発行済株式総数 344,603,700株 株主総数 29,688名

大株主

株主名	持株数	持株比率*
伊藤忠・フジ・パートナーズ(株)	76,568,800	25.78%
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)	26,057,000	8.77%
日本テレビ放送網(株)	20,891,400	7.03%
(株)東京放送ホールディングス	18,434,000	6.21%
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(三井住友信託銀行再信託分・三井物産(株)退職給付信託口)	13,405,200	4.51%
住友商事(株)	11,129,200	3.75%
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	8,411,000	2.83%
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	6,623,400	2.23%
ステート ストリート バンク アンド トラストカンパニー 505001(常任代理人(株)みずほ銀行)	4,779,611	1.61%
(株)電通	4,059,400	1.37%

上記のほか、自己株式が47,595,852株あります。

* 持株比率は、自己株式を除いて計算しております。

免責事項

本株主通信に掲載されている予想、戦略、経営方針、目標等のうち、歴史的事実でないものは、将来の見通しに関する記述であり、これらは、現在入手可能な情報にもとづく経営者の前提、計画、期待、判断などを基礎としています。これらの将来の見通しに関する記述は、様々なリスクや不確定要因の影響を受けるため、現実の結果が想定から著しく異なる可能性があります。

株主メモ

決算期日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
上記基準日	毎年3月31日
配当の基準日	期末配当3月31日 中間配当9月30日
取引市場	東京証券取引所 市場第1部
証券コード	9412
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 東京都中央区八重洲一丁目2番1号

お問合せ先

お取扱窓口

証券会社に口座をお持ちの場合、各お取引の証券会社等へお問合せ下さい。
証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)、下記「お取扱店」にてお取次いたします。

お問合せ先

〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
フリーダイヤル 0120-288-324(土・日・祝日を除く9:00~17:00)

お取扱店

みずほ証券 本店および全国各支店／プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)
みずほ信託銀行 本店および全国各支店

未払配当金のお支払

みずほ信託銀行 本店および全国各支店
みずほ銀行 本店および全国各支店
(みずほ証券では取次ぎのみとなります)

※支払明細の発行については、上記の「お問合せ先」または「お取扱店」をご利用ください。

社会に役立つスカパーJSAT

災害医療救護通信エキスパート育成協議会(DCOME)に参画

国民の生命・身体を守る医療・救護活動の現場では、情報通信技術の普及により通信ネットワークへの依存度が高まっています。そのため東日本大震災や熊本地震などの大規模災害時において、非常用通信手段としての衛星通信による高速インターネットの重要性は増えています。

昨年6月、総務省「大規模災害時の非常用通信手段の在り方に関する研究会」報告書においても「災害医療救護拠点が確保すべき非常用通信手段」と「非常用通信手段に係る人的能力の強化」が提言されています。これを受けて、非常用通信を適正に利用できる人材を育成する目的で「災害医療救護通信エキスパート育成協議会(DCOME)」が立ち上げられ、体系的な研修・訓練を行うことになりました。

スカパーJSATは、これまで熊本地震でもDMAT(災害派遣医療チーム)に同行し、災害医療・救護活動に協力してきましたが、本通信エキスパート研修の実技訓練の講師として、人材育成事業の一端を担うことになりました。一人でも多くの人命救助、及び防災対策の強化による強靱な国づくりに貢献してまいります。



11月3日、4日に行われた可搬型地球局を設置する実技訓練の様子(災害医療救護通信エキスパート育成協議会が実施)